



平成27年8月26日
内閣府（防災担当）

南海トラフの巨大地震モデル検討会（第51回）及び 首都直下地震モデル検討会（第35回）合同会議 議事概要について

1. 検討会の概要

日時：平成27年7月31日（金）10:00～12:00

場所：中央合同庁舎第8号館4F 407会議室

出席者（検討会委員及び有識者）

阿部座長、入倉委員、大原委員、岡村（眞）委員、岡村（行）委員、武村委員、平川委員、
平田委員、福和委員、翠川委員

株式会社小堀鐸二研究所 小鹿副所長、工学院大学 久田教授

2. 議事概要

長周期地震動の計算手法や影響の評価、報告書の内容などについて、事務局から説明を聴取し、議論を行った。今回の議事の概要は次のとおり。

- 本検討で行った地盤構造モデルの修正に関して、活用した観測データや具体的な修正内容に関する情報を含めて、利用しやすいようにするべきではないか。
- 本検討においては、工学的基盤における長周期地震動を推計する。なお、工学的基盤より上の浅部地盤の取り扱いについては、地震動の振幅が増幅する効果や入力波が強くなるにつれて地盤の固有周期が長くなるといった非線形性があることを留意点として明示する必要がある。
- 本検討で用いる三次元差分法を用いた長周期地震動の推計では、震源近傍で震幅が特に大きくなるという課題があり、観測事実を基にした検証が必要である。震源近傍の検証では、国内の地震だけでは事例が少ないため、メキシコやチリなど海外の事例も参考にすべきである。
- 公表する報告書には、長周期地震動がなぜ平野部で震幅が大きくなるのかなど、分かりやすく解説するポンチ絵があるとよい。

- 家具固定の推進については、東京消防庁などが行った実験結果などを参照し、具体的な記述を検討してはどうか。

<本件問い合わせ先>

内閣府政策統括官（防災担当）付

調査・企画担当参事官 名波 義昭

同企画官 森本 輝

同参事官補佐 池田 雅也

TEL : 03-3501-5693（直通） FAX : 03-3501-5199